二〇一五年七月三日

梅雨晴れ間花殻摘みに追はれけり　明日香
熊笹の揺れどほしなる径涼し　ひかり
朝顔のどの子の鉢も咲き揃ひ　さつき
しつらいは竹の花籠夏料理　豆狸
軒高く積むトロ箱や梅雨深し　さつき
背負籠はみ出してをる胡瓜かな　こすもす

二〇一五年七月二日

キッチンの窓燃えるごと大夕焼　満天
半どんの町にちらほら浴衣の子　あさこ
群れてゐて真向き背きや蝌蚪の国　さつき

二〇一五年七月一日

あめんぼう己が水輪を蹴りすすむ　なつき
旅立ちの列車でまずはビール干す　さつき
園丁の粋な菅笠花菖蒲　さつき
夏草に百葉箱の足見えず　こすもす
バス涼し広き車内に吾一人　豆狸
あめんぼの群れて水輪の混乱す　豆狸
襟足の大人となりて浴衣の子　満天

二〇一五年六月三〇日

水遣りを夫に念押し夏の旅　さつき
娘から孫へ藍染ゆかた継ぐ　はく子

二〇一五年六月二九日

側溝の蓋躍らして男梅雨　せいじ
夏空を二タ分けしたる飛行雲　豆狸
昏れてなほ空の青さよ半夏生　菜々
朝顔の双葉の鉢を抱く童　ともえ
老二人に見舞ひのメロン多すぎて　はく子

二〇一五年六月二八日

白日傘池塘の松の幹がくれ　せいじ
雲脱ぎて鼈甲色の梅雨の月　菜々
木道の足元照らす蛍かな　なつき
大木に宿りて高し凌霄花　ひかり
足下なる瀬音涼しと欄に寄る　司郎
打ち水の露地に句会の余韻かな　こすもす

二〇一五年六月二七日

疲れ目によしと青田の道選ぶ　満天
折り畳み自転車担ぎ夏の旅　さつき
雲くぐる度に滲みて梅雨の月　菜々

毎日句会みのる選・二〇一五年七月五日